文化の白子

第３８号　令和５年３月３１日
編集・発行　白子町文化協会

＜主な内容＞

・池上了伯一代記・・・・1
・第 33 回生涯学習
　フェスティバル　・・2～3
・特別講演会・・・・・・・4
・ふるさと歴史発見・・5～6
　～元禄津波と池上一代記～
・「白子の俳句ものがたり」7
・研修視察報告・・・・・・7
・サークル活動報告　・・・8
・編集後記・・・・・・・・8

町指定文化財（歴史資料）昭和六十三年三月一日指定

池上了伯一代記（付り津波ノ事）

白子町関四一三三（池上正教　蔵）

白子町関の池上家に「一代記」が保存されている。これは、池上家の祖先、了伯安闊（やすひろ）さんが、生涯の履歴を、編年体に記した冊子である。

この冊子は、タテ十二センチ、ヨコ十五センチの半折の和紙十一枚の綴込で、元禄津波を体験した部分は、※付（つけた）りの部分に記されている。

この付（つけた）りの部分には、自らが元禄の大地震にともなう九十九里地方を襲った大津波に遭遇し、九死に一生を得たそのなまなましい体験とともに、大津波襲来の状況が詳細に記されている。

この史料の注目すべき点は、大津波に遭遇し、一命をとりとめた、かけがえのない記録であるとともに、現在の防災上からも、後生の人々に、いかにすれば津波の難をのがれることができるかを教訓的に記しているところである。

注　釈

※付（つけた）り　～　本来のものにつけ加えられただけの、重要でないもの。添えもの。

参考資料

・白子町の文化財　白子町教育委員会　平成八年三月発行
・ふるさとの歴史～白子の群像～　千秋社　牧野　誠一
昭和六十二年二月二十日発行

サークル活動報告

白子町歩こう会

岡澤　正義

平成十年に発足したこの会も早や二十五年となります。この間の入会者は、のべ三百余名。事故もなく、活動できているのは、役員はじめ、会員の方々のご協力に寄るものと感謝しております。コロナ禍ではありますが、まだまだ、新しい体験を散策しながら、重ねて行きたいと思っております。毎回十km程度を目安に歩いていますので、興味のある方は、ご一緒にウォーキングはいかがですか。

（活動日時）毎月一回
（場所）県内外
（年会費）二千円。他に参加費。

白写会

大矢　重遠

感動する一瞬を、写真に残せたら…。白写会の会員は、日々こう思って活動しています。

近年新型コロナで、皆さんと一緒の撮影旅行等の機会は失われましたが、各々好みの場所で、美しい夕景、花に集まる妖艶な蝶、桜散りゆく無情感等々、素晴らしい作品を制作し、青少年センターに展示しています。

写真を趣味にすると、出かける機会も増え、カメラの設定等で頭を使う事も多くなり、自然と心も体も健康を保てます。是非、一緒に撮影してみませんか。

（活動日時）原則第四土曜日九時から定例会
（場所）青少年センター会議室
（会費）月五百円（半年分納付）

小原流生け花サークル

野口　よう子

花のある生活を始めてみませんか。

花の色や香りに、苦労や不安などを和らげる効果があると言われています。

当サークルでは、三大流派のひとつである小原流の基本形から、フラワーアレンジメントまで、気軽に学ぶことができます。

家事の疲れや仕事のストレス解消には、「花のある生活」がおすすめです。

見学だけでも大歓迎。お待ちしております。

（活動日時）毎週金曜日
　十八時～二十一時
（場所）青少年センター
（会費）毎月の材料費

編集後記

文化の白子第三十八号をお届け致します。原稿のご寄稿と写真・資料をご提供いただきました方々に感謝とお礼を申し上げます。

久しぶりに、研修視察と生涯学習フェスティバルを実施することができ、会員の皆さんの笑顔を見ることができました。これからは、感染に注意しながら、元の活動が取り戻せるように、元気を出して頑張っていきましょう。

編集委員長　育野　建男
編集委員　長谷川太江子
〃　片岡　幹男
事務局　長島　正明
　　長谷川由紀

文化の白子第三十八号
発行者　白子町文化協会会長
　　大多和　秀一
事務局　白子町教育委員会
　　生涯学習課内
電話　（三三）二一四四
ＦＡＸ（三三）七四六一
題字・友書会　三浦　靜子書

あざみの会

第３３回白子町生涯学習フェスティバル

作品展示：令和５年３月９日（木）～12日（日）
芸能発表：令和５年３月11日（土）
展　　示：書道・俳句・写真・押し花・天文・染色・俳画等文化協会所属のサークル部員、生涯学習教室生の作品展示
芸能発表：太極拳・コーラス・大正琴・フォークダンス・オカリナ等

レフアＴＯＹＯＫＯカーホナオレ

太鼓衆　楽　ーRakuー

オカリナサークル

太極拳竹友会

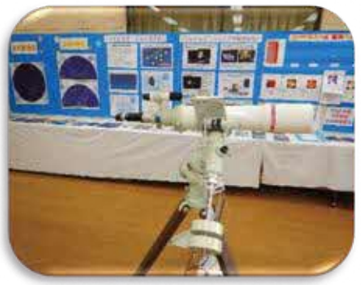
ひまわり琴の会

フォークダンスサークル

コーラスサークルコールヴィント

俳画クラブ

白子絵手紙の会


白子天文サークル

友書会

押し花サークル　さくら会

白子町の文化財を守る会

白子町歩こう会

九十九里浜の自然を守る会

しらこ俳句会

染色サークル

白写会

撮影協力：白写会

特別公演会

第一部
「春を彩どる!! 名曲ピアノコンサート」

青木　智哉　氏

（演　目）
・ショパン　ポロネーズ「英雄」
・リスト　「愛の夢」第三番
・平井康三郎　さくらさくら幻想曲
・小椋佳　愛燦燦
・アラン・メンケン
映画「美女と野獣」より
映画「アラジン」より他

（プロフィール）
☆　千葉県茂原市出身
☆　四歳からピアノを始め、東京音楽大学ピアノ演奏家コースを卒業し、同大学院器楽専攻鍵盤楽器研究領域終了。
☆　第十二回日本演奏家コンクール特別賞受賞。
☆　二〇一五年、八月エンゲルス国際音楽祭（ドイツ）にてバッハのブランデンブルグ協奏曲第五番のソリストを務める。
☆　二〇一六年、高嶋音楽事務所より、フォークソングをクラシカルに演奏するピアノトリオ「ザ・フレッシュメン」としてデビューし、CD「Folk Once More」をリリース。

演奏をする青木氏

☆　YouTube にて百万回以上の再生回数を記録している「東京ディズニーランドをピアノで一周する動画」の作者でもあり、自身が編曲を手掛けたディズニー音楽によるピアノコンサートを定期的に行い好評を博している。
※　心に染み入るクラシックから、ディズニーのウキウキするような演奏まで、とても楽しく夢のような時間でした。

第二部「心揺さぶる フラメンコショー」

土肥　美木子　氏

（演　目）
・ファンダンゴ・セビジャーナス
・ブレリア　・タンゴ
・アレグリアス

（プロフィール）
☆　千葉県出身
☆　一九九四年よりフラメンコを杉本明美、エルトレオ、ホアキングリロ等に師事。
☆　渡西（スペインへ行く）を繰り返し、フラメンコを本場スペインにて学ぶ。
☆　二〇〇二年よりソロ活動開始、都内タブラオ、高円寺エスペランサ、恵比寿サラアンダルーサ、赤坂ノーベンバー11、西日暮里アルハンブラ、恵比寿サラアンダルーサ等に出演。
☆　二〇〇三年～都内、二〇〇八年～東金市、二〇〇九年～茂原市でフラメンコ教室を開催中。
☆　城西国際大学、生涯学習講座にて『やさしいフラメンコ』、東金高校の国際教養の単発講座を担当。また、障害のある方向けのフラメンコ体験やワークショップなども不定期開催。

フラメンコを踊る土肥氏

☆　二〇一五年ミオンパシー協会認定インストラクター取得。
☆　二〇一七年七月　ミセスジャパン日本大会にてグランプリ受賞
☆　二〇一七年十月　ミセスアジアの世界大会でグランプリを受賞
※　フラメンコの本格的なショーを見たことのない私でしたが、鳴り響くダンスの靴音、迫力あるギターの音と歌声に圧倒されました。そして、情熱的なダンスに魅了されました。

ふるさと歴史発見

～元禄津波と池上一代記～

白子町は臨海の町で、古来より大規模な地震や津波に襲われている。地勢が低平であること、防波堤に相当する岩盤の無いこと等が主な理由である。慶長津波と元禄津波がとりわけ大きかったようである。

（１）元禄津波の被害について

元禄十六年（一七〇三）十一月二十三日の大津波は、駿河湾内の地盤の沈降によるもので、その影響は津波となって、房州沿岸から、九十九里まで侵入して、おびただしい溺死者と家畜の損失を蒙った。白子町でも一挙に一千余名の人命と牛馬雞犬まで失って、各地に屍の山が築かれ、人口の半分を失った。

（２）精霊供養塔について

未曾有の災害を蒙った我が郷土は、一挙に親、兄弟を失い、家屋を流され、衣もなく食もなく、飢餓と寒さに屍は累々と横たわった。個々人の埋葬の手段がなく、墓地の近くに大溝を掘って、そこに溺死体を合葬したのである。合葬後早くても七年、通常十三年後に、各村々で追難供養を行って、供養碑を建てた。現在の精霊供養碑がそれで、三碑は塔があるが、他の五塚は無塔である。

①精霊供養塔　史跡（町指定）

精霊供養塔（牛込）

これは寛政十一年（一七九九）、牛込村男女一同が、大津波の百年忌に立てた供養塔である。

元禄津波の犠牲者、六十四名を埋葬した所で、墓塔正面に「元禄十六歳舎癸未（みずのとひつじ）、南無妙法蓮華経、東海激浪溺死　五十七人　己来七人　精霊」とある。

②津波代様　史跡（町指定）

古所の通称「つなしろ様」とよばれる津波供養碑によれば、「元禄十六年末十一月二三日津波諸精霊老若男女二百七十余とあり、二百七十余人の供養碑である。十三回忌にあたる正徳五年（一七一五）十一月二三日の供養碑であることがわかる。

つなしろ様（古所）

③無縁塚津波精霊様　史跡（町指定）

幸治にある無縁塚は俗に津波精霊様とよばれ、古老の言によれば、水死者三百六十余人を葬ったものという。これは、幸治の津波の避難者は多く、高谷原、高根本郷村に向かって逃げたが、蝮沼方面の水量が高まり、逆水のため板ばさみとなり多数の溺死者を出したという。

無縁塚津波精霊様（幸治）

現在、供養碑は三碑あるが、この他に無塔なものもある。

中里の無縁塚（鬼人台）、八斗高の無縁塚、五井高の上人塚、牛込下村の竜宮台は、元禄津波の溺死者の埋葬地であると言われている。

白子町全体の人的被害については、茂原の鷲山寺津波碑に記されている。

古所　津波代様	二七二
幸治　無縁塚供養塔	三〇四
中里　鬼人台	二二九
八斗　津波精霊様	七〇
剃金	四八
牛込	七三
浜宿	五五
五井	八
八カ村合計	一〇五九

以上が人的被害についてである。

（３）池上了伯一代記　歴史資料（町指定）

物的被害については、家屋や耕地等の被害が甚大であったことだと思われる。一面泥沼となり田畑の区別もつかなくなり、作物の被害も大きかっただろう。

津波によってうけた多くの人的、物的資源の被害はおそらく我々の想像を遙かに超えるものであったであろう。

この大災害の実態を我々が知る手がかりとなるものがある。

それが、池上安闊（やすひろ）が書いた「池上了伯一代記」である。彼の本国は信濃高遠村であるが、延宝頃から江戸譜代の臣保科肥（ほしな）後守の家臣として、江戸芝に住まい、父の三男に生まれた。幼時を江戸で過ごし、漢学、医術も学び、二十二歳の時に任官したものの、主君の都合により浪人となり、元禄三年九月浪人の身分で長崎に行き、オランダ流外科医術の相伝を受けて、江戸に帰った。その後、角田伊左衛門のすすめによって、上総国四天木村（現大網白里市）に住み、さらに関村、古所村にも転居し、学問を幼童に教えるかたわら、医療を施して生活を営んでいた。

彼が、関村に在住の頃、天変地異がしきりにおこり、果ては、元禄津波に巻き込まれ、九死に一生を得たが、その後、宝永年間までも、天災に悩まされつつも、遂に当地に永住するまでの苦難の人生記録を、実体験のまま綴ったものが、「一代記」である。

「一代記」は池上家の年譜であるものの、彼の流転先々の情況と色々の実体験が、生々しく描かれていることと、彼の経験から、後代の人の処すべき優れた遺訓が親切に述べられていることが、この一代記が重要な書類であるといわれる所以である。

草庵ヲ結ヒ居住ス、妻ハ観音堂ニテ約諾シテ同十七日引取ル（中略）サテ又津波入テヨリ月々ニ大地ウゴイテヤマズ、一日ニ五度三度ユル夷ハ酉ノ年マデ不止其砌二ヶ月三ヶ月ノ間ハ津波又來トテ、逃去夷度々ナリキ、未ノ年ヨリ廿七年以前延寶四己巳（丙辰）年十月十日の夜戌ノ刻津波入前ニ、大成地震一ツユル、此時波六丁計打入、十丁バカリ流渡ル由謂傳ル、其前巳ノ年ヨリ五十一年以前巳ノ年ノ如ク入ル由語リ傳ル、今年度未ノ年入タル如クナル夷開闢ヨリ以来、此濱ニ不二云一傳、南ハ一宮ヨリ南サホド強カラズ、北ハ片貝ヨリ北強カラズ、

（次段へ）

一代記　付り津波の事

（前段から）＊①後來ノ人大成ル地震押カヘシテユル時、必大津波ト心得テ、捨二家財ヲ一早ク岡江逃去ベシ、近邊ナリトモ高キ所ハ助ル、古所村印塔ノ大ナル塚ノ上ニテ助ル者アリ、家ノ上ニ登ル者多家潰レテモ助ル、如此ヨクヽ可レ得レ心（中略）

これによれば、元禄の大津波は海際より岡へ一里ばかり潮がおしよせ、潮の流れは一里半にも及んだとしている。

そうして、上総九十九里浜において数千軒の家がおし流され、数万人の僧俗男女から、牛馬鶏犬まで溺死したとある。

この筆者は五井村の十三人塚の杉の木にとりついたが、冷えてすでに仮死状態になったところを、なさけある人々が藁火で暖めてくれて一命をとりとめたと言っている。

溺死者は特に市場の橋や五井の印塔で死んだ者が多く、幸いにも、明石原の上人塚の上では多くの人が助かったとのべている。

この記載は、大津波目撃者であり、体験者（被災者）がしるしたものであるところに大きな特徴がある。郷土における被害状況を参考にするとともに、かつ、地震があった際にこのころの人々が、「津波がある場合は井戸の水が干る」という経験的な勘を心得ていたこともわかる。

特に津波の際の教訓として「**後來ノ人大成ル地震押カヘシテユル時、必大津波ト心得テ、捨二家財ヲ一早ク岡江逃去ベシ、近邊ナリトモ高キ所ハ助ル（中略）家ノ上ニ登ル者多家潰レテモ助ル、如此ヨクヽ可レ得レ心**」とのべており、津波の際の心得事項が大いに参考となると考えられる。

（参考資料）

・白子町史
昭和四十年八月十五日発行
白子町

・白子風土記
平成元年三月二十三日発行
白子町

・白子町の文化財
平成八年三月発行
白子町教育委員会

・ふるさとの歴史　白子の群像
昭和六十二年二月十日発行
著者　牧野誠一

「白子の俳句ものがたり」

～前田普羅ゆかりの地を訪ねる～

白子町文化協会の「白子町の文化財を守る会」では、白子町教育委員会の依頼を受け、白子町の文化財をめぐるガイドブックの作成に協力しました。

このガイドブックは、白子町ゆかりの俳人、「前田普羅」の句と文化財を結びつけて、俳句を味わいながら、文化財をめぐるものです。

普羅の父親の実家が、白子町関にあったので、白子町をよく訪れては、俳句を詠みました。特に、南白亀川や白子神社の祭りを詠んだ句がたくさん残されています。

本書は、普羅の「向日葵の・・・」句が、地引き網の漁士達を詠んだ句であることから、「九十九里地引網発祥の地」の碑を見学します。次に、南白亀川の「青のり漁」を詠んだ句をもとに、「青のり創業五十年碑」をまわるようになっています。

十一月二十八日には、「バスハイク」も行われ、「白子の文化財を守る会」会長の片岡幹男さんに解説していただきながら、文化財めぐりを実施しました。

ガイドブックは、青少年センター窓口にありますので、皆さんも是非、白子町の文化財と俳句にふれてみてはいかがでしょうか。

研修視察に参加して

菱川師宣記念館・おおつの里

研修委員　長島　加代子

令和五年一月二十日は、朝方の雨で、天候が心配されましたが、バスが館山道を走るころには、風もなく穏やかな日となりました。

最初の訪問地「菱川師宣記念館」は、郷土の偉人・菱川師宣と浮世絵を紹介する施設で、師宣の生い立ちから、江戸での活躍、江戸美術界に与えた影響など、師宣の作品を通して紹介されていました。特に、浮世絵の製作工程が展示されていて、興味深く鑑賞することができました。

昼食は、保田の「ばんや」でいただきましたが、窓からうっすら見える富士山がとてもきれいでした。

次に、「おおつの里花倶楽部」では、ビニルハウス一面に、金魚草が咲き乱れていました。

花摘みを終えて、「八天堂きさらづ工場」へ向かう途中、事故による通行止で約二時間も遅れてしまいました。

「うまくたの里」での買い物はできませんでしたが、有意義な一日を過ごすことができました。

ありがとうございました。